

発達凸凹子育てマップ

～未就学から就労まで、一目でわかる進路ガイド～



未就学

小学校

中学校

高校

18歳以降

児童発達支援

放課後等デイサービス

保育所等訪問支援

※障害福祉サービスにはこの他、日中一時支援事業・移動支援事業・訪問看護などがあります。

- 保育園
- 幼稚園
- 認定こども園
- 療育園・発達支援センター

- 通常学級
- 通級指導教室
(特別支援教室)
- 支援級(情緒)

- 支援級(知的)
- 特別支援学校小学部
- フリースクール

- 通常学級
- 通級(特別支援教室)
- 支援級(情緒)

- 支援級(知的)
- 私立中学校
- 特別支援学校中学部
- フリースクール

- 公立高校(普通科・専門科・総合学科等)

- 私立高校(普通科・専門科等)
- 通信制高校(+サポート校)
- 定時制高校
- チャレンジスクール等
(地域によって名称は異なる)
- 高等専修学校
- 高等特別支援学校
- 特別支援学校高等部

【進学】

- 大学・大学院
- 短大
- 専門学校
- 福祉型カレッジ

【就労】

- 一般就労
- 障害者雇用

【就労支援】

- 就労移行支援
- 就労選択支援 **New!**
- 就労継続支援A型
- 就労継続支援B型
- 職業能力開発校

【社会参加】

- 自立訓練(機能訓練・生活訓練)
- 生活介護(デイサービス)



※発達特性のある生徒の受け入れ実績のある私立中学校という選択肢も少しずつ増えています。

※2022年度より一部の高校で通級指導教室が導入されています。
また、全日制・定時制・通信制の高校にはそれぞれ学年制ではなく単位制の学校もあります。

※大学等、高等教育機関においても、学生相談室等で、障害特性に配慮したサポートが
受けられる例が増えています。

進路は一本道ではありません。途中で変更することも、遠回りすることも、立ち止まることもできます。
大切なのは「どこなら力を発揮できるか」まずは選択肢を知ってお子さんの可能性を広げていきましょう！

(注意事項) こちらの情報は、2026年7月1日現在の情報です。掲載された情報については、保護者である作成者が情報収集したものです。
地域差・学校差もありますので、お住まいの地域で必ず当てはまるとは限りません。また、制度は変更される可能性があります。
必ず、ご自身で居住地域の情報をお確かめの上、参考程度にご活用ください。転載や流用については固くお断りします。

36ページ詳細版は
公式LINE登録で
もらえます⇒





発達凸凹小学生のサポート実例

感覚・運動面

- ✓ 触れないものがある時の工夫（粘土、のり等）
- ✓ 着替え場面での配慮（給食着・体操服）
- ✓ 聴覚過敏への対応
（座席・マイク使用時の配慮・イヤフ）
- ✓ 感覚鈍麻・体の位置感覚の弱さからくる
友達トラブル（遊具・センサーイ活用）

生活面

- ✓ 視覚支援の実施（スケジュール・やることリスト・
持ち物チェッカー・ホワイトボード & メモの活用）
- ✓ 料理や掃除のお手伝い（おうちモンテッソーリ）
- ✓ お金の概念の理解（買い物・おつかい）
- ✓ 余暇活動の種まき
（得意や好きなことを伸ばす活動）

学習面

- ✓ 姿勢の調整（椅子のクッションや足元の補助具）
- ✓ 文房具の工夫（下敷き、鉛筆補助具、リーディングルーラー）
- ✓ 取り組み順序の工夫（体を動かしてから等）
- ✓ ICT機器を活かした学習
（タイマー・タブレット・音声入力・課題提出）
- ✓ 凸を生かした勉強法を学校と共有（検査結果分析）



※支援内容はお子さん一人ひとりの特性や発達段階によって異なります。
必要な支援は学校・専門機関と相談しながら考えていきましょう。



発達凸凹中学生のサポート事例

生活面

- ✓ 必要に応じた視覚支援の継続実施（手帳やスマホでのスケジュール管理・ホワイトボード & Mの活用）
- ✓ 困りごとを相談できる親以外の相手を作る
- ✓ 日常のルーティン・身の回りの整理整頓の自立
- ✓ スマホ・SNS・ゲーム利用時のルールの共有

学習面

- ✓ 提出物管理の視覚化・リマインドの依頼
- ✓ 定期テストに向けた計画&見直しのサイクルをサポート
- ✓ 塾・学校の支援担当等の外部機関との協力（思春期は親子だけだと大変！）
- ✓ 受験に向けた合理的配慮等の相談・準備

将来へ向けて

- ✓ 自己理解のための書籍やツールの提供
- ✓ 金銭管理の練習（おこづかい・電子マネー・交通系ICなどの管理）
- ✓ 外出の練習（電車・自転車等行動範囲拡大）
- ✓ 余暇活動を通じた友人関係の構築のサポート
- ✓ 高校見学・オープンスクール等への参加



※支援内容はお子さん一人ひとりの特性や発達段階によって異なります。
必要な支援は学校・専門機関と相談しながら考えていきましょう。